Shirayuri

仙台白百合女子大学後援会報

No.1
2012.3

仙台白百合女子大学後援会

Contents

2　学長 後援会発足によせて
　　後援会会長挨拶
3　後援会副会長 抱負
　　学部長 後援会への期待
　　学科長 後援会への期待
4　同窓会長 後援会発足によせて
　　保護者 後援会への期待
　　学生会 後援会への期待
5　後援会事業部会紹介
6　2012(平成24)年度　行事予定
　　後援会からのお知らせ
　　編集後記

後援会発足によせて

仙台白百合女子大学 学長　**和田　美稚子**

仙台白百合女子大学は、1966（昭和41）年４月に開設された仙台白百合短期大学をその前身としております。当時70年以上の歴史をもって仙台駅近く花京院通りにあった仙台白百合学園では、教職員、保護者、卒業生が長年にわたって短期大学設置を切望しておりました。学園の土地は狭く短大を併設することが出来ませんでしたので、土地探しの結果当時「宮城郡泉町」と呼ばれていた現在の地に短期大学を設立することになりました。その頃はまだ地下鉄も国道４号線も整備されておらず、見渡す限り田んぼと畑の中でした。学生達の通学、教職員の通勤にも厳しいものがあり、当時の保護者の方々のご厚意により、「父兄後援会」が設置され援助して頂きました。その後2003（平成15）年に仙台白百合短期大学が女子大学に統合された時、後援会は廃止となりました。

しかし昨今の社会情勢の中で、入学から卒業まで学生達を取り巻く環境には課題が多く、大学教育の場においてもご家庭との連携の必要性を痛感するようになりました。そこで、保護者の皆様方のご協力をお願いするため後援会設立を希望し、一昨年末からその準備に取りかかっておりました。その矢先、東日本大震災に襲われ、すべての計画は延期せざるを得ない状況になりました。昨年３月には毎年の大きな行事である卒業式も中止となり、その上４月にはまだ新入生を迎えるような状態にまで復旧することが出来ず、入学式も５月の連休明けまで待たなければなりませんでした。

このような大災害に遭遇したことにより、在学生の保護者との連携・協力の必要性を以前にも増して実感いたしております。震災後、それぞれのご家庭におかれましても予想外の多岐にわたる問題を抱えておいでになるとは存じますが、ぜひ保護者の皆様のご支援を頂きたく、ここに「仙台白百合女子大学後援会」設立の運びとなった次第でございます。

この事業を通して、在学生の保護者の皆様のお力添えを頂きながら教職員一丸となって、学生達の貴重な４年間の教育に当たり、将来の日本社会、ひいては平和な世界の建設に貢献出来る若者達を社会に送り出すよう尽力してまいりたいと希望しております。どうか私共の意向をご理解の上、仙台白百合女子大学の教育にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

後援会会長挨拶

仙台白百合女子大学後援会 会長　**菊地　政彦**

仙台白百合女子大学保護者ならびに教職員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動へのご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

仙台白百合女子大学後援会は、在学生保護者・大学教職員との連携を密に一致協力した活動を通じて、学生生活の向上、更には大学発展への寄与・会員相互親睦を図ることを目的として、昨年10月に設立されました、新しい会となります。

現在、私たちを取り巻く社会環境は、昨年３月に起きました東日本大震災・福島原発事故の影響、さらには日本経済の低迷など先の読めない、特に学生にとっては、厳しい状態がしばらく続く事が推測されます。そこで、後援会としましては、４つの事業を主体とした活動を通じて、将来の日本、平和な世界の建設に貢献できる若者達を社会に送り出すという、後援会設立趣意書に掲げられております、大きな目標実現の一役を担える後援会としていきたいと思います。

事業計画

①学生の学習・就職活動・課外活動の支援

②教育・研究活動の支援

③奨学金支援

④会員対象の研修会・講演会

現在、後援会本格運営に向け、役員・教職員が一丸となり、初年度事業計画を遂行できる環境作りを行っています。当面の活動課題を奨学金支援・課外活動支援・キャリア支援及び後援会活動を定期的に紹介する機関誌発行として捉え、それぞれに対応する４つの事業部会を発足させ、事業達成さらにはスムーズな会の運営ができるよう取り組んでいます。

将来にわたり学生・大学に大きく貢献できる、より良い後援会を築きあげたいと思いますので、皆さまのご意見をいただければ幸いです。

本後援会の目的達成に向けた計画事業の運営・遂行におきましては、役員・教職員のみの活動では得ることが出来ませんので、在学生保護者の皆さま方の益々のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

後援会　副会長抱負

仙台白百合女子大学後援会 副会長
神崎　基久子

この度、副会長を務めさせて戴くこととなりました、神崎基久子と申します。浅学非才の身ではございますが、どうぞ、宜しくお願い致します。

初めて、当後援会の設立についてお話を伺いました時、私自身の学生時代を思い出してみました。当時、この様な組織は、心当たり無く、（なぜ、大学にPTAのような会が必要なのか？）と、疑問に思うばかりでした。

しかし、昨年の大震災により、思いがけず我家は、被災者の一員になってしまいました。様々な支援の手が差し伸べられ、助けて戴きました。何気なく過ごしていた毎日の生活や活動が、実は、様々な方々の支えがあって、成り立っていたことに、気付かされました。

この経験から、学生の皆さんが、『平穏無事』に、大学生活を過ごし卒業出来る様、支援は欠かせず、又、支援方法は、複数必要と考えられる事から、当後援会が、その一端を担えれば良いのではないかと思うに至ります。

「活きる」を応援しましょう

仙台白百合女子大学後援会 副会長
健康栄養学科学科長　**石出　信正**

講演、非常勤講師などで来学された方は本学の学生さんが「礼儀正しく」「優しい」ことにびっくりされますが、反面「おとなしすぎる」「覇気がない」との印象も持たれるようです。私ども教官も本学の学生さんが教科目以外でもっともっと「活き活きと」活動してほしいと思っています。スポーツ、音楽、ボランティア活動、芸術など若い時の経験は一生、身につき人生を豊かにしてくれるはずです。また、その領域での活躍は同窓生も含め関係者全員の誇りになるでしょう。今回、保護者の方々、教職員が一丸となって発足した後援会が、このような活動を、環境の整備、がんばった学生さんへの褒賞などさまざまな面で応援していただけたら幸いです。加えて、保護者の皆さまがこれらの活動の指導者として参加していただけたら素晴らしいと思っています。学内の会員としてそのような指導が可能になるような制度の整備に力を尽くしたいと思っています。

後援会に期待するもの

仙台白百合女子大学 人間学部長
牛渡　淳

このたび、本学に後援会が設立されることになりました。周知のように、現在、我が国の大学は、急激な少子化の嵐の中で、本学も含めて、どこも生き残りのために大変苦労しています。このような状況の中で、本学の教育活動を「後援」していただける組織が発足することは、大変ありがたく、また、心強く思います。もとより、大学教育を担う責任は我々教職員にありますが、それは、保護者の皆様のご理解とご支援があってのことです。後援会の発足を機に、これまで以上に教職員と保護者が手を携えて、学生たちがよりよい学生生活を送れるよう、大学教育の充実に向けて全力をあげたいと考えています。また、後援会の設立は、「開かれた大学」を目指すためにも重要なことです。後援会を通して、本学の教育活動全般に対して保護者の皆様のご意見やご要望を反映させたり、大学の持っている人的・物的リソースを保護者の皆様にも提供できるようにしたいと考えております。今後の後援会活動にご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

後援会への期待

人間発達学科 学科長
朝倉　充彦

このたび保護者の皆様のご協力により、本学において後援会発足の運びとなりましたことに厚く感謝申し上げます。

今日初等・中等教育において開かれた学校づくりが進められています。特に、PTA活動が、単なる学校の奉仕団体ではなく、学校運営ならびに教育実践への参加を通してより良い教育をめざした活動が期待されています。大学もまた開かれた学校づくりのために、後援会が果たす役割は大変大きいのではないかと思われます。後援会という場が、様々な思想・信条の人々や違う職種の人々が出合う場となり、この出合いを生かして相互に信頼し合える関係が構築されれば、その人間的信頼関係を基盤に、学生・保護者・教職員の連帯と協力の意識が作り出され、本学の教育がより前進することと確信します。後援会の皆様のご協力のもと、全学一体となってより良い教育をめざしていくことを期待申し上げます。

仙台白百合女子大学後援会に期待すること

総合福祉学科 学科長
大坂　純

2011年3月11日に発生した東日本大震災（以下震災）によって、宮城県は様々な課題を抱えることになりました。その一つには、震災によって家族や仕事を失った人達や仮設住宅で暮らす人々への心理社会的な支援をどのように展開するのかといったことがあります。総合福祉学科は、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士といった専門職を養成しております。津波によって壊滅した地域の復興は、住民が築いてきた地域の文化や価値観を理解し、側面的に支援できる力量を備えた支援者の存在を欠くことはできず、福祉専門職の育成は急務であるといえます。総合福祉学科では、豊かな人間性を備えた専門職養成を目指しています。後援会の皆様には、福祉専門職を目指す学生が夢を実現し、社会に役立つ人間に育っていけるよう、物心両面からのご支援ご協力をお願いできればと思います。教員とご家族が手を携え、学生が復興を支える人材として社会に羽ばたくまで、ご協力をお願い申し上げます。

後援会への期待

国際教養学科 学科長
横尾　元意

この度本学に後援会が設立され大変喜ばしく思っております。

本学科におきましても、保護者の皆様のご協力を頂きながら教育に当たらなければならないと感じていたからです。学生はそれぞれ将来への希望を抱いて入学し、保護者の方々はお嬢さんに篤い期待を掛けて送り出しておられます。これからは、後援会を通して大学と保護者との意思疎通が図られ本学の教育と学生の将来に大きく資するものと考えております。また、本学科では「異文化体験」、「国際教養現地実習」という科目の他、5カ国8大学との提携により海外語学留学の機会を設けています。出来れば、保護者の方々からも広く情報を得て展開し、また先方からの学生受け入れについてもご協力をお願いして、大学構成員全体として、国際化へと進むことが出来るのではないかと期待しております。

後援会発足によせて

同窓会会長
渡邊　博子

仙台白百合女子大学後援会会員の皆様、昨年秋の後援会発足、おめでとうございます。子供達をとりまく環境が多様化し、複雑化してまいり、又、日本においては少子化が騒がれはじめて何年を経過した事でしょうか。将来を期待されております青少年のために、家庭、教育機関、地域社会と、さまざまな方面より支援、協力態勢をとりながら見守っていかなければならない様な時代になってまいりました。その様な時、仙台白百合女子大学におきましても後援会が発足し、その第一歩を踏み出されます事、後援会会員の皆様と共にお喜びを申し上げます。同窓会といたしましても将来同窓生となられます学生の皆様のために、出来る限りのお力添えをさせていただくつもりでおります。同窓会は1968年より44の時を刻んでまいりました。キリスト教に基づく精神を受けついで、短大7,685名、大学3,108名の方々が各方面で活躍されております。母校への思いを込めて全員で御支援、御協力させていただく所存でおります。

後援会設立にあたり～つながりの中で～

総合福祉学科２年 保護者
佐藤　正枝

昨年、半年遅れの後援会発足。昨年と言えば、あの悪夢とも言える３月11日が頭をよぎってなりません。

あの日あの時間……勤務先（幼稚園）で、すやすや眠る子どもたちを布団のまま園庭に引きづり出しました。そして、あの日あの時間から、満面の笑み、元気な声、かわいらしい仕草、すべて断ち切られてしまいました。

本来、人は「育ち」の中でいろいろなことを身に付けていきます。他を思いやる心や優しさ、助け合い、支え合いというつながりのすべてです。

「一将功なりて万骨枯る」という言葉があるように、後援会発足までには多くの人の努力やご苦労があったことと思います。これからあらゆる面でつながりを持つ後援会は、私たち保護者にとっては、子女の教育を託するに値する頼もしい存在です。子女がより良い教育・研究環境の中で様々なつながりを持ちながら、勉学に勤しむことが私たち会員の願いです。

心のかけ橋

国際教養学科１年 保護者
川口　五月

この度は仙台白百合女子大学後援会設立、誠におめでとうございます。

昨年の東日本大震災における様々な影響や長引く不況など、世の中はとても厳しい状況となっておりますが、この大命題を抱えた困難な時期、大学と保護者を繋ぐ後援会の設立、役割は非常に意味深いものだと思います。

近年、学生が抱える課題として、就職や将来の進路に対する不安、対人関係、精神的な諸問題が増えている現状を耳にします。後援会の活動には大学と学生を後方から支える一番の応援団として、学生の諸活動の支援の充実と安心して学生生活を送れるような精神的なサポートを期待しております。希望としては、親が個別に相談できる窓口の設置と、保護者同士の交流の場（懇談会・研修会等）の開催です。自宅通学・一人暮らしに関わらず、学生生活を案じる親心は同じだと思います。日頃から気にかかっている事を相談できる有益な情報交換の場は貴重です。

後援会活動を通して少しでも保護者の方々の悩みや不安の解消に繋がればと願っている次第です。

多くの夢や希望を胸に仙台白百合女子大学に入学された学生の皆さんが安心してそれぞれの道へ元気に巣立っていく一助となりますように、また大学と学生の心のかけ橋となる活動を心よりご祈念申し上げます。

後援会へ期待するもの

健康栄養学科２年 保護者
加藤　裕憲

仙台白百合女子大学後援会設立おめでとうございます。

昨年の10月22日（後援会設立総会）は都合がつかず出席できかねたことを先ず持ってお詫び申し上げます。

さて、このたび後援会に対しての原稿依頼があり、自分なりに後援会について期待するものを記してみることといたしました。

保護者としてみれば一番の関心ごとは子供の大学内での活動（生活）状況についてであります。

我が家の場合は自宅通学のため、帰宅してから一日の出来事を家庭内で良く話してくれる方かとは思いますが、自宅外の保護者の方にも大学内での学習を始めとする生活状況について知りうる方法が後援会としてとれないでしょうか。

例えば大学の現況、学生の大学生活を紹介するためのDVDを制作し、白百合祭（後援会総会）会場において上映する。また、大学の各種行事案内を掲載した「白百合カレンダー」を発行し後援会員に配布することにより、大学側と保護者が共通認識を持ち、一体となって今後の活動の強化につながれば大変喜ばしいことと思います。

後援会への期待

人間発達学科２年 保護者
横山　倫子

この度は後援会発足、そして機関誌創刊号の発刊、誠におめでとうございます。

娘は入学して２年が過ぎましたが、仙台白百合女子大学の恵まれた環境・設備と先生方のご指導のお陰で学業にクラブ活動に充実した日々を過ごしております。

又、昨年の震災で被災したご家庭への援助等、大学側の素早い対応にも敬意を表したいと存じます。

今、私たち日本人は震災で大きな打撃を受けましたが、力を合わせて復興に努めています。たくさんの物を失いましたが、お互いを思いやる気持ちや、万物へ感謝する気持ちが強くなりました。人はそれぞれが使命を持って生を受けているそうです。大学生活の４年間で使命を見つけるまでには至らないかもしれませんが、少しでも将来に希望を持って前に進んでいけるよう後援会としてお力添え下さいますようお願いいたします。

仙台白百合女子大学の学生たちが、世界中をを幸せにできるような笑顔の美しい女性へと成長することを心より祈っております。

後援会への期待

学生会 会長
伊東　加奈子（人間発達学科２年）

仙台白百合女子大学に入学して、早いものでもう２年が過ぎようとしています。昨年の東日本大震災に遭遇し、様々な想いを胸に、学生の皆さんは以前にも増して日々の大学生活においてとても充実した日々を過ごしていると感じております。勉学はもちろんのことですが、サークル活動、課外活動、ボランティア活動などそれぞれ同じ目標を持った仲間同士、お互いに励みながら活動している姿を目にしています。学生が盛んに活躍できるのは、保護者の皆様や教職員の方々のお力があってこそ実現できていると私は思います。

キリスト教の「共に寄り添う」という精神を土台に、学生、保護者、教職員が互いに切磋琢磨し合いながら学生一人ひとりが伸び伸びと大学生活を送れるよう、環境を整えることが求められます。今まで以上に学生が勉学やさまざまな活動を通して心身ともに成長し、学生、保護者、教職員との連携を密にし、情報の共有、学生への支援を期待しております。

後援会事業部会紹介

機関紙編集部会

後援会副会長 部会長　**松浦　栄子**

仙台白百合女子大学後援会として、大学、学生、同窓会、保護者に年に一回、情報発信の場として機関紙を発行していく予定です。

ただ、発行するのではなく興味をそそるような内容を目指し、永く愛される機関紙となる事を願います。

今、学生を取り巻く環境は、さまざまな変化を遂げています。そうした中、各部会を通して、学生を支援していく活動状況や問題点要望などを取りあげ後援会会員の皆様へ広く伝え一緒に取り組み学生、大学と三位一体となり成長を見守りたいと思います。

一年前、入学する事を楽しみに日々過ごしていましたが、予期せぬ突然の出来事にただ茫然とするばかりでした。そんな中、この大学に入学し親子で白百合ファミリーの一員として過ごすようになり後援会役員を引き受け活動するには充分な器も引き出しもありませんが、この大学を愛する気持ちだけは強いと自負しております。この度、副会長及び機関紙編集部会長という重責をいただきましたが、まだまだ未熟ですので、一保護者として活動させていただきたいと思います。

奨学金部会

部会長　**武山 宏司**

創刊号の発行に際しまして後援会の奨学金部会を代表して考えていることを申し上げます。

奨学金部会は保護者の皆様からお預かり致しました大切な予算につきまして基本的構想として、頑張ろうとする、また頑張った学生、さらに、優秀な結果を残されました学生へ拠出することを考えております。

学生の本業は、勉強をすることであると思います。また、この時期に身体も鍛えていただきたいと考えております。

大学生活は、社会に羽ばたくための準備期間であると思います。是非、この期間に精神的に肉体的にも、自己を鍛え、磨いていただきたいと考えております。また、この過程において自己が、社会発展のために何をなすべきかを十分に考えていただき、努力を重ねていただきたいと思います。

奨学金部会は、学生の皆様が、充実した学生生活を送り、自己の価値を高められるようご支援を行いたいと考えております。

課外活動支援部会

部会長　**鈴木　茂**

仙台白百合女子大学後援会機関紙創刊号発刊にあたり、課外活動支援部会の紹介をさせていただきます。

当部会は、理事９名（保護者６名、大学３名）で構成され、主な役割はクラブ・サークル活動などの支援です。

現在、当部会はクラブ・サークル活動の活性化を通し学生生活の充実を図るために、どのような支援が必要かまた出来るか、内容の調査・検討を始めようとしているところです。

今後、課外活動支援をはじめ後援会すべての事業を進めて行くためには、保護者および学生そして教職員の皆様のご理解とご協力が不可欠です、どうぞ宜しくお願いいたします。

キャリア支援部会

部会長　**早坂　由美**

仙台白百合女子大学後援会「キャリア支援部会」は就職活動の応援を基本に活動しています。東日本大震災から約一年、「元気な日本」「頑張ろう東北」の熱い思いの中、復興には若い世代のエネルギーが最も必要とされています。震災復興は長い道のりのなか各企業の努力、生産集約、反転攻勢へ転ずるものの東北景気、東北の経済活動は緩やかな回復が続いているという判断を2ヶ月連続で据え置きました。生産、消費とも回復傾向にあるものの、ほぼ横ばいだったことと踏まえました。有効求人倍率は前月比0.03ポイント上昇し0.70倍8ヶ月連続で改善しましたが数字的にはまだまだ低水準です。そこで後援会としては模擬試験の費用負担、履歴書用写真の費用負担、県外就職活動の交通費の一部支援、学生向け講演会、教員向け講演会の開催などを今後検討し、一人でも多くの優秀な人材を世に送りだせるよう就職支援を続けていきたいと思います。

2012(平成24)年度　行事予定

前　　期	後　　期
４月３日(火)　入学式	９月24日(月)　後期授業開始
４月11日(水)　前期授業開始	10月13日(土)　AO入試Ⅱ期
６月16日(土)　**後援会総会**	10月27・28日(土・日)　**白百合祭**
６月16日(土)　１・２年生保護者会	11月３日(土)　姉妹校・指定校推薦入試
７月30日(月)　前期授業終了	11月10日(土)　公募推薦入試
９月８日(土)　AO入試Ⅰ期	11月17日(土)　**就職に関する保護者懇談会**
	12月15日(土)　AO入試Ⅲ期
	１月28日(月)　後期授業終了
	２月５日(火)　一般入試Ａ日程
	３月３日(日)　一般入試Ｂ日程
	３月19日(火)　学位記授与式
	３月23日(土)　AO入試Ⅳ期

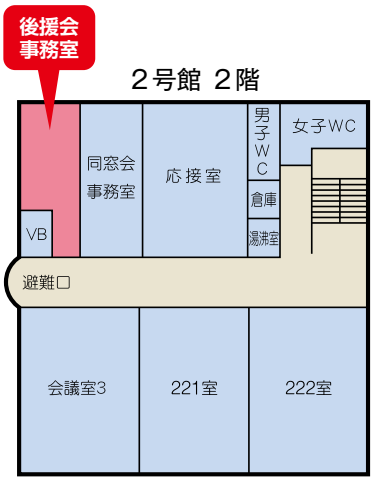
仙台白百合女子大学後援会からのお知らせ

菊地　政彦

後援会理事募集（後援会活動メンバー募集）のお願いです。

現在、後援会初年度計画事業の達成及び本格運営に向け、奨学金支援・課外活動支援・キャリア支援及び後援会活動紹介の機関誌発行の４つの事業部会作業を行っております。

将来にわたり、学生・大学の発展に貢献・寄与させる後援会の基盤作りを行う重要な活動年度となります。保護者の皆さまにも、是非、活動に参加いただき、より良い後援会作りを行いたいと思います。ご参加いただける方は、後援会事務局まで連絡をお願いします。



編集後記

記念すべき創刊号を無事発刊する事ができた事を大変嬉しく皆様のご協力に感謝申しあげます。

一年前、大変大きな震災という経験をし、「絆」や「がんばろう」というスローガンの下、駆け抜けてきたという思いだけで、準備期間も短く、どこから手をつけたら良いかもわからない中、白百合の名にふさわしいステンドグラスの表紙や、シャルトル・ブルーの意味など少しずつ皆様に伝えていく事ができたら幸いです。

次号も学内のかくれた白百合をご紹介したいと思います。(夢ちゃん)

表紙のステンドグラス「キリストはぶどうの木」の制作者は、榎戸悦さん。

新約聖書の「わたしはまことのぶどうの木…（ヨハネ福音書15章）」をテーマに作られたものです。シャルトル・ブルーといわれるガラスがふんだんに使われています。

５号館4F西側テラスにあります。

仙台白百合女子大学後援会

〒981-3107　仙台市泉区本田町６番１号

TEL：022-372-3254

FAX：022-375-4343

E-mail：kouenkai@sendai-shirayuri.ac.jp

この印刷物は、地産地消・輸送マイレージに配慮したライスインキを使用して印刷しています。